

## 第 4 回国土審議会（H15.12.10）における委員からの指摘事項

（国際連携・持続的発展基盤小委員会関連）

- ・ 国土計画については、この国のかたちを示すという大きな使命がある。その場合、これまでの国土計画はそれぞれの時点における意味があった。最初の 4 つは、日本が欧米と国際競争するための国土計画。「21 世紀の国土のグランドデザイン」はグローバル化時代、なканずく東アジア地域との関わりのなかで日本の国はどうしていくかという国際的視点が入ったという点で非常に新しい。日本を一極集中から多極分散型に変えていくために、4 つの国土軸を出した。そのための戦略として、多自然居住地域を居住空間に変えていくということを出した。この 2 つの大きな柱を踏まえて総点検してほしい。
- ・ 構造改革は、総論賛成各論反対で、全体としては総論としていいが、いざ現実になると、それぞれの現場から自分のところという声が出てくるだろう。全体感と地域に根ざした見方と整合性をもたせてやってほしい。交通情報通信と国土構造について、部会、専門委員会の意見はまさにそのとおりだが、公共交通やインフラの整備の必要性を誰もが現場では感じているが、それをどうするかという話になると、道路公団の話でもそうだが、現実とギャップがある。
- ・ 北海道をオーストリア、中国をベルギーと比べたりしているが、こういう比べ方をして説得力があるのか。地域ブロックを考える場合は、東京と他の地域と均衡がとれるかどうか、国際競争力がとれるかどうか。東京圏、首都圏と比較となるとブロック間格差があるので、東京を基準にとるべき。国際競争力となると、先進国並の規模をもたないといけないので、最低でもカナダくらいの規模をもたないと地域ブロックはやっていけない。そういう観点から、10 のブロックはブロック間の連携を高めるべき。そして、どういう単位までまとめるかというときに、「21 世紀の国土のグランドデザイン」で出された 4 つの国土軸、すなわち 4 つくらいに国土を分けても十分にやっていけるという示唆が出されている。日本の国力は GDP 500 兆円なのでカナダの 6 倍、英仏の 3 倍。それを 4 つに分けても十分に先進 7 カ国サミットに出て行ける。中国地方がベルギーと一緒にだから中国にがんばれといっても、関東と比べると雲底の差があるので、関東から支援を受けるということになりかねない。中国、四国、九州をまとめると東京と等しくなるとか、中国 + 近畿で首都圏と対等になるといった視点をもってほしい。その際、これからの国際競争は、欧米ではなく、アジア。観光の話があったが、中国への外客数の増加は著しい。中国では人集めが国家戦略になっている。東アジア間の連携を強めていこうといった甘いレベルではなく、世界 GDP の 1 割を占め

るのが観光産業に関わっているのです、ここに関しては、もっと厳しいアジア地域間競争に耐えうるような地域ブロックを考えていくという姿勢をだしてほしい。

- 21世紀は、一国(ネーション・ステイト)主義の中での国土形成の時代から、経済社会、情報、文化、技術を含めて、世界が一体でつながるとい時代。加えて、人口も減少していく社会。この2つの全く違う意味の中で、国土の問題を考えざるをえない。中長期計画の意味が前よりハードに完結型で線をひけない。オープン・スタンス、オープン・システムとして考えながら、同時に、中で暮らす国民の生活の質を考えなければならないという難しいスタンスをとらなければならない。非常に苦しいけれども、21世紀は世界の構造は変わっている。東アジアコミュニティ形成という中長期の展望、変化に我々が適応していけるような国土形成という視点をもたざるをえない。変化に適応する力をどのようにたてていくのか。産業という視点からみると、1,000万人単位のメガロポリス、上海地域等との連携、しかも国境を越えて直につながっていくなかで産業が動いていく。その中で日本の生きる道も求めざるを得ない。メガロポリス間連携を考えながら、かつ、生活の質をどう担保するのか。
- 二層の広域圏については、個人はとくに重層のネットワークに所属している。それを支える情報ネットワークの整備は大変重要。
- 欧米については、経済圏のブロック化が進んできており、日本は欧米と親密な関係を保って経済成長をしてきた。ここへきてアジア経済圏との交流が急速に強まっているが、3つの地域をマーケットとして成長していくためにもネットワークの整備が重要。
- 今後国内人口減少していくというなかで、一つ一つの産業の発展維持のためには、クリティカル・マスとしてのマーケットが必要。アジア、欧米の大きな経済動向のなかで、日本がどのように経済成長していくかというときに、どのようにクリティカル・マスを、地域の経済活動をいかにつなげていくか。観光、交流に加えて、アグレッシブな、高付加価値を生み出す産業基盤としても位置づけてほしい。
- 二層の広域圏に入らない地域が非常に多い。この問題にもう少し焦点をあてるべき。九州で五島、椎葉など二層の広域圏に入らない地域の調査をしたが、何が問題かということ、あまり金をかけないでどうするかということ。一つは行政の壁、たとえば県境を越えたバス路線がない。それから、縦割りの壁。農道、林道、国交省の道路が複雑に走っており、立体的でない。医療についても、たとえば上五島ではヘリがくるのに手続きで2時間かかる。今は自衛隊のドクターヘリしかないが、いくつかのブロックでヘリをもつという代替

案もあろう。椎葉村では集落から集落まで車で1時間かかる。ネットワークをどう作るかは集中投資する価値がある。条件不利地域については、単に自然保全でなく、クオリティ・オブ・ライフという視点でどうするか。

- ・ 海外との国際連携については、これからの国土計画を国際的に捉えるという意味で重要。一方で、資源収支の不均衡や地球環境問題、外国人労働問題、外国人犯罪問題についても、国土計画上考えなければならない課題。
- ・ 観光という視点をもう少し柱にしてたてていく必要があるのではないか。観光立国の議論がされ、国内各地で観光振興が盛ん。観光は国づくりの根幹、国造りの非常に大きなパートと思う。これまでの観光資源は、景観観光、物見遊山的なものだが、新しい観光として、これまでになかった観光資源の開発をしようとする動きが地方で盛ん。産業遺産の産業観光、街道観光、都市の個性に着目した都市観光といった新しい動きを、国土計画の中にも位置付けてほしい。現在までの観光資源は保全、保護、日常との調和をどうするか。新しいものについては、そういうものを計画に位置づけてどのように調整を図りながら発展させていくか、あるいはそこにいたるインフラをどう考えていくか。観光という性格からまとめて、国づくりの柱として最終計画に位置づけてほしい。この中にも外客誘致や景観保全など、断片的にはあるが、観光という観点で総合することが必要ではないか。
- ・ 観光については、地域に根ざしたソフトをどう開発していくかがないと、地方からも海外からも人がこない。これからの日本が生きる道は、交流人口を増やしていくしかない。定住人口が少子高齢化で減るなかで、交流人口のあり方、その中での観光の位置づけをしっかりと視点としてもってほしい。
- ・ 特色あるまちづくりをそれぞれの地域が進めていくなかで、観光は日本の大きな産業でもあるし、心のふるさとでもある。モノ、経済から心、ソフトに回帰していく、そのときに何が必要かという視点が貫かれているように思えるのはよい。
- ・ 観光、歴史、文化については、総点検という実をきちっとおこなっていけば、先の全総にも書いてあるので、自ら出てくる。そういう方向で議論に含めたい。
- ・ たとえばインフラその他の整備において、これからは重点主義。その場合、地方の切り捨て、重点的でないところの表現をどうするか。特区を導入して重点的でないところにも地域の活力を生かしながら新しい地域づくりをする、そういうメニューを国土計画に入れる。重点的でない地区にも新しい発想で特区といった考え方などをいれると全体のバランスがとれるのではないか。
- ・ 社会資本については、これまでつくられた公共施設の維持管理、更新が大事

な時代になる。一方、美しい国土、美しい環境という観点から見た場合、その地域で手に入りやすい木材、石材など地域資源を使って公共施設を補修していく。人工工作物の景観を考えるとなおさらそう。

- ・ 社会資本整備に対し風当たりが強いが、たとえば国際交流圏を構築するとすると、当然、情報通信・交通ネットワークの整備は不可欠。大きな計画の中での社会資本整備は当然やっていかななくてはならない。観光についても、日本から外へでかける人と外から日本へ入る人のギャップが非常に大きい。外客が増える美しい国土をつくっていく、それに社会資本整備を伴わせていくことが必要。特に、物流についても、日本はアジアの拠点国家でなくなっている。拠点空港、拠点港湾をしっかり整備しないとアジアの拠点たりえない。特に拠点空港、拠点港湾については、戦略的整備が必要。そのための集中投資は当然必要。拠点空港、拠点港湾を結ぶ交通ネットワークの整備も必要。
- ・ 経済成長から生活へフォーカスをシフトするのは納得。一方で、長期的に発展を持続できることが大変重要な部分で、今までは発展を支えるハードウェアの整備に資源を投入してきた。今後、我々が何を資源として長期的発展をとげるかという、情報通信ネットワークを中心に据えた国土計画であることも重要ではないか。交流人口の話がでていますが、そこへ来てしばらく滞在して帰って終わりという一過性のメリットではなく、常につながっていることの出来るインフラをベースにした交流でなければならない。情報通信ネットワークを今までの交通インフラ同様に重視した国土計画が必要ではないか。常につながっているから交流することが意味をもつ。
- ・ 今一番元気な国はオランダと言われているが、オランダでは歩くことが盛ん。日本人は歩くことをやめて活力がなくなった。歩くことを国土計画に入れる。美しい国土をつくるというときに、歩行文化を提唱する必要があるのではないか。